



Choir of St John's College, University of Cambridge

松蔭女子学院 創立 120 周年記念

ケンブリッジ大学 セント・ジョンズ・カレッジ聖歌隊 コンサート 2012



入場料：一般：¥2,000

2012年7月25日(水) 開場 17:00 開演 17:30

神戸松蔭女子学院大学チャペル

主 催：神戸松蔭女子学院大学・神戸コンサート実行委員会

後 援：英国領事館、日本聖公会神戸教区、日本聖公会大阪教区

お問い合わせ：神戸松蔭女子学院大学宗教センター ☎078-882-6124

日本聖公会神戸教区事務所 ☎078-351-5469

曲 目：

- ウィリアム・バード：5声のためのミサ
- ロバート・パーソンズ：アヴェ・マリア
- ヘンリー・パーセル：「主よ、われらの罪を思い出したもうことなかれ」 z.50
- ヘンリー・パーセル：「主に仕える諸々の僕よ、主をほめまつれ」
- ベンジャミン・ブリテン：「キリストによりて喜べ」 op. 30
- W. A. モーツァルト：モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」 K. 618
- ヨーゼフ・ハイドン：「小オルガン・ミサ」より ベネディクトゥス
- J. S. バッハ：教会カンタータ「御国にまします神をたたえよ」 BWV 11 より第1曲

ケンブリッジ大学

セント・ジョンズ・カレッジ聖歌隊

セント・ジョンズ・カレッジ聖歌隊は、世界屈指の大学聖歌隊として、録音や放送、コンサートツアーを通じて多くの人々に愛されている。カレッジのチャペルでの礼拝は英国国教会の大聖堂の伝統に従ったもので、聖歌隊は1670年代から礼拝での役目を担ってきた。

少年聖歌隊生は全員がセント・ジョンズ・カレッジ付属小学校で寮生活をしながら学び、アルト（カウンターテナー）、テノール、バスを歌う男子学生は、英国全土および海外から聖歌隊奨学生として選抜されたカレッジの学部生。副オルガニストとオルガン奨学生は聖歌隊の活動に関して音楽監督を補佐する役割をもち、毎日のリハーサルに出席するとともに、チャペルの礼拝で伴奏している。

セント・ジョンズ・カレッジの聖歌隊は、英国の大聖堂聖歌隊の大多数とは一線を画す、表現力に満ちた豊かな響きをもっている。長年にわたって世界各地で演奏してきた。シャンドスよりハウエルズ「聖ヨハネのマニフィカト」、「わが言葉を聞け」（聖歌名曲選）、オルランドゥス・ラッス「ラウデント・デウム」「クリスマスの夜に」などのCDをリリースしている。

毎学期、セント・ジョンズ・シンフォニアと共にバッハの教会カンタータを歌っている。さらに英国の聖歌隊では唯一、年間を通して毎週の礼拝をインターネットで配信している。

アンドリュー・ネスシंगा

(セント・ジョンズ・カレッジ聖歌隊音楽監督)

アンドリュー・ネスシंगाは、2007年からケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジ聖歌隊の音楽監督を務め、指揮者およびオルガニストとしてヨーロッパだけでなく北米、南米、南アフリカ、中国で演奏してきた。また、毎週の礼拝をインターネットで配信し、学期ごとにバッハのカンタータを歌うシリーズを作るなど、聖歌隊に様々な改革をもたらしている。

ネスシंगाは、父が四半世紀以上にわたってオルガニストを務めていたエクセター大聖堂の少年聖歌隊員として音楽の手ほどきを受けた。王立音楽院に進み、さらにケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジで学んだ。

これまでに、英国内の主要なオーケストラと共演。フィルハーモニア管弦楽団では主要な合唱作品を指揮した。

その他、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、ロンドン・モーツァルト・プレイヤーズ、ブリテン・シンフォニア、BBCコンサート・オーケストラを指揮している。近年では、BBCプロムス、アムステルダム・コンセルトヘボウで演奏。

フランスや米国では、合唱の指導も定期的に行っている。